

アイロニー：話し手の意図と聞き手の解釈

—アメリカテレビドラマの会話分析

Irony: speaker's intention and listener's interpretation

—Conversation analysis of American TV dramas

梅田 礼子

Reiko UMEDA

和歌山大学クロスカル教育機構教養・協働教育部門

Abstract

This paper observes some examples of verbal irony from American TV dramas, with special attention to the speaker's intention and the listener's interpretation. Various listener's reactions will be shown. This paper also observes the cases where ironies are not detected by the addressees and shows that naivety, lack of knowledge, self-centeredness, and lack of empathy can be the reasons for failing to detect the ironies. Using English TV drama scenes including verbal irony is useful in English education, because it requires understanding of contextual information and human relations to understand verbal irony.

キーワード/ Keywords: コミュニケーション、アイロニー、発話者の意図、推測、解釈、文脈情報、コミュニケーションの不誠実性、コミュニケーションの不誠実性理論 communication, irony, speaker's intention, inference, interpretation, contextual information, communicative insincerity, Communicative Insincerity Theory

1. はじめに

言葉を用いたコミュニケーションでは、言葉に内在する意味と、言外の意味がある。山梨(2021)は次のように、言葉によるコミュニケーションの複雑さを指摘している。

(1) 「対話によるメッセージは、単に言葉の形式と意味から直接に理解されるのではなく、さまざまな対話文脈の中で具体的に理解される」(山梨(2021,1-2))

「対話の環境を構成する要素には、言語的な脈絡にかかわる要因、対話の行われる具体的な場面や状況にかかわる要因、対人関係や役割関係などに関係する社会的な要因、さらには発話の意図やその了解の背景となる対話者相互のメンタルモデルを特徴づける心理的な要因などが考えられる」(山梨(2021,2))

言外の意味、特にアイロニーの意味を Grice(1975)が「推意」という概念を用いて説明

したことから、アイロニーの研究がその後盛んになった。心理学、認知科学、社会学の分野でも取り上げられ、実験を取り入れた研究や内海(1997a)らのように、アイロニーの計算モデルを構築する試みもある。

本稿ではアイロニーを含めた会話の例を観察・分析し、話し手のアイロニー意図の有無や、聞き手がそれに気付くかどうか、また、気付かない場合はどういう理由か、などを考察する。なお、本稿では「状況アイロニー (situational irony)」(例：A子は親友B子から恋愛相談を受け、親身にアドバイスした。その結果A子は恋人から、「B子と付き合うから別れてくれ」と言われて、二人は別れてしまった。(内海 1997b の例))ではなく、「言語アイロニー(verbal irony)」を扱う。

2. 先行研究

2.1 Griceの語用論とその問題点

Grice(1975)は、会話は参加者の協調の上に成り立つとし、「協調の原理」および、それを支える4つの下位概念「会話の公理(格率)」の観点から言語現象の説明を試みた。

(2) 協調の原理(Cooperative Principle)

会話における自分の貢献を、それが生ずる時点において、自分が参加している話のやりとりの中で含意されている目的や方向性から要求されるようなものにせよ。(今井(2001,190))

(3) 会話の公理(格率)

a.量の公理(maxim of quantity)：自分の貢献を、要求されている分量きっかりのものにすること。要求以上であっても以下であってもならない。

b.質の公理(maxim of quality)：真でないことを自分が知っていることや、真であるという証拠を持たないことを言ってはならない。

c.関係の公理(maxim of relation)：関連性のあることを言え。

d.様態の公理(maxim of manner)：明瞭で、簡潔で、順序立った話し方をせよ。(今井(2001,190))

松井(2001)は Grice の貢献として、「コミュニケーションを説明するのに推意という概念を導入したこと」(松井 2001,58)を挙げ、「グライスの語用論には、協調の原理を守っているはずの話し手が伝えたいことはこのことであろう、と聞き手が話し手の意図を推測するということが中心的な役割を果たしていることは明らかで、その意味でグライスは語用論を「心の理論機構」*と結び付けた最初の人である」と評している。(松井 2001,59) (*「心の理論機構(Theory of mind)」は心理学、哲学の分野の用語で、「感情、欲求、知覚、意図、信念、思考、推論などをつかさどるシステムで、それによって自分が感情や欲求、意図、信念を持っていると自覚したり、他者が自分と違う『心』を持っているということを推測したりすることができるようになる。」(松井 2001,57)

「関連性理論」の提唱者である Sperber & Wilson は、Grice の想定した推論のメカニ

ズムでは「話し手の意図を確認するために、聞き手が無限のメタ表象を作り出さなければならないという現実離れしたシナリオができてしまう」ので、「今日の認知科学の見方からすると妥当とは言えない点があると指摘した」(松井 2001,59)

アイロニーに関しては、Griceは「(仕事上で裏切りをした親友Xに対して) Xは素晴らしい友達だよ」と字義通りの命題の反対命題を述べる例を挙げ、会話の公理の内の「質の公理」に意図的に違反しているという説明を行った。これに対し、例えば橋元(1989)は次のような「こだま的アイロニー」の例を挙げ、「質の公理」に違反していないとして、Griceの説明の問題点を指摘した。

(4) A: これでも僕は登山部の部長だったんですよ。

B: ほう、君が部長ねえ。

他にも、後に挙げる内海(1997,2003 他)、岡本(2000, 2004 他)などがGriceの説明の問題点を指摘している。

2.2 Sperber & Wilsonによる「関連性理論」

Griceの説では、コミュニケーションの規範として「協調の原則」や「会話の格率」を設定し、それが守られているとして「推意」が得られるとした。その修正として、Sperber & Wilson(1986(1995))は2つの関連性の原則を提案した。

(5) 関連性の認知原則(Cognitive Principle of Relevance): 人間の認知は、関連性の最大化と連動するように動く傾向がある。

(6) 関連性の伝達原則(Communicative Principle of Relevance): すべての意図明示的伝達行為は、それ自体の最適な関連性を見込みを伝達する。

(7) 最適な関連性を見込み(Presumption of Optimal Relevance):

- a. 意図明示的刺激は、受け手がそれを処理する労力に見合うだけの関連性がある。
- b. 意図明示的刺激は、伝達者の能力と優先事項に合致するものの中で、もっとも関連性のあるものである。(東森・吉村 2003,18)

この理論での「関連性」は「i) 認知効果の大きさ(=認知環境改善の程度)と、ii) 認知効果を受けるために必要なコスト、という二つの要素の間のバランスの上に成り立つ」もので、「発話の認知効果が大きければ大きいほど関連性は増し、発話解釈のためのコストが高ければ高いほど、関連性は逆に低くなる」のである。(今井 2001(2009),22)

関連性理論や言及理論(Mention Theory)ではアイロニーについて、「エコー的解釈」の1つと考える。内海(1997,101)によるまとめでは「アイロニーとはある人の見解や発話に(直接的または間接的に)言及することによって話し手の心的態度を表明するものである」と考える。(例: 会社の同僚の「俺のほうが君より早く出世するよ」という発話に対して「へえー、君のほうが僕より早く出世するの」)

これにより、アイロニーに関するGriceの説の、『字義通りの意味の反対命題』がアイロニーの伝達する意味であるとする前提を排除し、その結果『字義通りの意味の反対命題』は何であるのかということや、どのようにして意味が反転するのかという、

従来の分析で生じた問題点は全て解消される」(岡本雅史 2000, 113)。しかし、内海(1997,102)は、1. 言及される対象となる見解・発話とアイロニー表現との関係が不明確であるという意味で、彼らの言及の概念は不明確(例:楽しみにしていた海水浴が台風で中止、土砂降りの雨を窓から見ながら「これじゃあ、ビーチは人でいっぱいだ」などは誰のどのような発話や見解を言及しているのか定かでない)、2. アイロニーでない言及表現とアイロニーの区別が明確でない、また、アイロニーをどのように認識するかを説明していない、などの問題点を指摘している。

2.3 内海の「暗黙的提示理論」

内海(2003)はアイロニー研究の主流、メタ表象性に着目した「関連性理論」も、アイロニーの不適切性に着目したアプローチ(Attardo2000, 辻 2001 など)も、すべてのアイロニーを表現しきれない、アイロニーでない表現も含まれる、という問題点を指摘した。そして、アイロニーである表現とそうでない表現との境界は明確に決定できる性質のものではなく、アイロニーという概念をプロトタイプの的に規定した、「暗黙的提示理論」(内海 1997 など)を提示した。(内海(2003,p7)を筆者要約)

(8) 暗黙的提示理論では「アイロニーは現在の発話状況がアイロニー環境(ironic environment)によって囲まれた状況であることを聞き手に暗黙的に提示する(implicitly display)言語表現である」(内海 1997,393)と考える。アイロニー環境は「アイロニーの成立に必要な不可欠な状況設定で、以下の3つの事象から構成される。発話状況がこれらの3事象を含むとき、その状況はアイロニー環境である。話し手の期待:話し手があることを期待している。期待と現実の不一致:話し手の期待が現実には満たされない。否定的態度:期待と現実の不一致に対して、話し手が否定的な態度(例えば非難)を持っている。」(内海 2002,141)

そしてアイロニー環境の3事象は言語表現を用いてそれぞれ以下のように暗黙的に提示される、とする。

- (9) 1. 婉曲的言及:言語表現は話し手の期待内容と連接関係が成立する内容を含むことによって、期待に婉曲的言及/ほのめかし(allude)する。
2. 語用論的不誠実性:言語表現は、語用論の原則に表面上違反することによって、語用論的不誠実性を含む。
3. 否定的態度の暗示:言語表現は、さまざまな言語的・非言語的手掛かり(たとえば、形容詞や副詞による誇張表現、特定のイントネーション・音調・アクセントなどのいわゆるアイロニー標識)を伴って、話し手の否定的態度を暗示する。内海(2002,142)
- また、「アイロニーという概念は境界が明確に定義できるものではなく、一種のプロトタイプ概念」であるという、重要な指摘をしている。(内海 2004,142)

2.4 岡本(2004等)の「コミュニケーションの不誠実性」他

岡本(2004等)はKumon-Nakamura、内海彰らの「語用論的不誠実性」の概念を発展させ、「コミュニケーションの不誠実性」という概念を提唱した。この「不誠実」は日常

の意味とは異なる。例えば、カラオケで下手な歌を歌った山田君に対し、「山田君はものすごく歌が上手だね」(誇張)、「山田君は歌手みたいに歌が上手だね」(比喩)、「山田君は歌がお上手ですこと」(不自然な敬語)と言うような場合で、「誇張、敬語等や非言語的諸表現によって、プラスの評価をするのとは裏腹の不真面目さが醸し出される。筆者(岡本)はそれを「コミュニケーションの不誠実性」と呼んでいる。これは、ほめるというコミュニケーションを誠実にやっていない、ということである」(岡本2013,197-198)

この理論による皮肉の説明の概要は次のようである。

- (10) 1. 皮肉は他者、社会的集団、制度等に関連する否定的事態をほのめかすことで、それを間接的に批判する発話である。
2. 皮肉には少なくとも1つのコミュニケーションの不誠実性が含まれる。
3. 評価の逆転が含まれる皮肉を逆転型、含まれない皮肉を非逆転型とする。
4. コミュニケーションの不誠実性は、皮肉らしい直接的でない批判の雰囲気を作り出すが、逆転型では逆転以外の不誠実性は、皮肉の手がかりとしても機能する(岡本2014)

コミュニケーションの不誠実性の例として、岡本(2013)は次のようなものを挙げている。

- (11) 感情・評価の逆転、事実との齟齬、誇張、控え目表現、不適切な言語行為[賞賛、感謝、約束、勧め]、ありえないことの仮定、事態の新解釈(対比、類似性の発見、意図の歪曲)、修辭的技法(比喩、慣用句、独自の意味の使用)、不適切な丁寧さ、正書法の違反、先行発話のエコー、音調の不自然さ(抑揚、鼻音化、強勢)、非言語的な不自然さ(笑い、目配せ、指さし)、不自然な記号の付加(イタリック、感嘆符、絵文字) 岡本(2013,200)

岡本(2004)などと同様に、実験を伴う研究として、例えば秋元・邑本(2007)は男女43名の実験参加者にアイロニーのターゲット物語24、フィラー物語12を提示し、アイロニーらしさを感じるか否かの選択をできるだけ早く評定してもらおうという実験を行った。その結果、「話し手に関係なく自己中心的な視点から語用論的不誠実を知覚した時点で発話のアイロニーらしさが知覚され、その後、[認知的]負担がない場合は話し手との共通基盤情報を考慮して、アイロニーでない場合はそれを抑制しているという仮説が支持された」ことを明らかにした。秋元・邑本(2007,300)

本稿はこれら、現在までの様々な理論に優劣をつけることや、新理論を構築することは目的とはしない。これらのうち、岡本(2004、2010(2000),2013)をベースに、特に話し手のアイロニー意図の有無と、聞き手の解釈について、事例を観察して検討する。

3. 分析方法

会話の実例として、アメリカテレビドラマのセリフを観察する。もちろん、ドラマは創作であり、厳密な意味では会話の実例とは呼べないが、日常生活を描いた会話の多

いドラマでは、現実の会話と近い、少なくともかけ離れたものではないと考えられる。話し手と聞き手の関係、話し手の意図（の有無）、聞き手による解釈、に注目して観察する。

使用したアメリカ TV コメディドラマは Big Bang Theory(BBT)と Friends である。

Big Bang Theory : カリフォルニア工科大学に勤める若手研究者シェルドン、レナードを中心に、日常生活や恋愛を描いている。研究者ゆえに世間ずれしている感じと、「スターウォーズ」などの映画やコミックにハマっている、「オタク」なところを笑いにしている。シェルドンは天才的だが、人の感情を読むことが苦手で、当人に悪気はないが、周囲と様々なトラブルを巻き起こし、それが笑いになっている。シェルドンとレナードはアパートでルームシェアしている。向かいの部屋に越してきた明るい女性ペニーとレナードが仲良くなる。レナードの大学の同僚・友人でジョーク好きなハワードに、ペニーがアルバイト先の同僚バーナデットを紹介し、二人は付き合うことになる。
Friends : New York の男女 6 人を中心とした恋愛コメディ。メインストーリーは古生物学者ロスと、ロスの妹モニカの親友レイチェルの関係。彼女たちのアパートの向かいの部屋にはロスの高校時代の親友チャンドラーと、俳優を目指すジョーイが暮らしている。ジョーイはやや基礎知識が足りない、いわゆるおまぬけキャラである。

4. 考察

4.1 話し手のアイロニー意図の有無と聞き手の反応分類

話し手がアイロニーをはじめとした言外の意味を意図しているか、していないか、聞き手が話し手の意図に気が付くかどうか、また、気付いた場合どのような反応・対応をするか、によって、状況は次のように分類できる。気付かない場合の理由についても考察する。

表 1. 話し手のアイロニー意図と聞き手の解釈および反応

話し手 聞き手		意図あり	意図なし
		発話者→聞き手 (ターゲット)	発話者←聞き手
気 付 く	① 傷つく・怒 るなど	例 1 レナード→ペニー(Psychic を信じている)	例 6 シェルドン←ペニー (物理を教える)
	② やり返す	例 2 クリプキ⇔シェルドン、 例 3 ビバリー(レナードの母)⇔ メアリー(シェルドンの母)	例 7 シェルドン←ペニー (友達アンケート)
	③ 受け入れる 流す・気付か ぬふり	例 4 ハワード→レナード (女々しい、と皮肉のジョーク)	例 8 シェルドン←ハワード (友達作りチャート)
	④ 戸惑う・気 付かぬふりを するなど	例 5 昆虫研究者→本人(自虐) (他人の自虐的アイロニーの 例)	例 9 シェルドン←レナード

	⑤その他 意図なし話者が第三者への皮肉に気付く		例 10 ビバリー ← ペニー (夫の浮気相手がウエイトレスだって!)
気付かない	理由 ①純粋、 naïve	例 11、12 ハワード (→) バーナデット 皮肉入りジョーク 例 13 クリプキ (→) シェルドン	
	②知識が不足	例 14 フレンドズのジョーイロス (→) ジョーイ	
	③自己中心的	例 15 ペニー (→) シェルドン わざとストリート系の話し方 例 16 ハワード (→) シェルドン 例 17 レナード (→) シェルドン	例 19 シェルドン (⇔) ビバリー互いには皮肉を感じない。視聴者を含む第三者視点からは嫌味たくさん。
	④他人に共感する能力が不足	例 18 ペニー (→) シェルドン	

注：→：アイロニーがターゲットに向けられていること、←：聞き手がアイロニーを感じ取ること、(→)：アイロニーがターゲットに向けられているが、ターゲットは気づいていないこと、をを表す。

4.2 話し手にアイロニー意図あり・聞き手が気付く場合

このケースについて、聞き手の反応により分類しながら例を観察する。(アイロニー部分に下線。登場人物名は初出のみ記載、以降は頭文字のみとする。S○-○はシーズン、エピソード番号。)

①傷つく・怒るなど

例 1) ペニー・レナードとバーナデット・ハワードがダブルデートに行く途中、ペニーの女優仕事の話になる。「これからうまく行きそうに思う」と言ったペニーに、ハワードが理由を尋ねると、「霊能者が髪を切ったら全国CMの仕事が来る」と言ったからだ。笑わないという約束を破って大笑いするレナード。

L: (大笑いして) Seriously? You're getting career advice from a psychic?

Howard: Good job not making fun of her.

P: She's not one of those phonies, okay. She wrote a book and has her own Web site.

L: Oh, gee, why didn't you say so? They don't let just anyone have a Web site.

P: Why are you being such a jerk?

L: You're surprised? Your psychic didn't tell you I was going to be a jerk?

P: Ha-ha, bite me. (S3-12)

科学者レナードにとって、ペニーが霊能者に仕事のアドバイスを求めたことは滑稽でしかない。思わず立て続けに皮肉を言ってしまい、ペニーは立腹。レナードの1つ目の皮肉は「Web サイトを持っているなんてすごい。それならそうと云ってくればよかったのに」と表面上は褒めており、岡本(2013)の「コミュニケーションの不誠実性」(以下「不誠実性」)のうち「不適切な言語行為」に当たる。2つ目の皮肉は、霊能者は未来を予測できると信じているペニーと同じ「前提」にのっとり、「それならば僕が嫌な奴になること(霊能者を信じている君を笑うこと)を予測できたはずだよね、なのにできなかったの？」と切り返している、痛烈な皮肉であり、ペニーをさらに怒らせてしまった。このように、相手の前提を(表面上)認めたとえでの皮肉は、相手に反論する余地を与えないことになり、皮肉の度合いが増すと考えられる。岡本(2013)の「不誠実性」の「事実との齟齬」を、相手の立場に立って指摘する高度(かつ強烈)な皮肉と言える。

②やり返す

例2) 大学のレストラン。シェルドンが、ラジオの科学番組に出演することになった。嬉しい知らせをレナードたち友人に発表しようとした時、クリプキが通りかかり、言ってしまふ。むっとして、珍しく嫌味を言うシェルドン。

Sheldon: Thank you Kripke, for depriving me of the opportunity to share my news with my friends.

Kripke: My pleasure. (膝を曲げ、手のひらを上にして差し出すジェスチャーと共に。)

S: My thank-you was not sincere.

K: Mn~ But my pleasure is. Let me ask you a question. At what point did National Public Radio have to start scraping the bottom of the barrel for its guests?

S: 言い返そうとするも、とっさの攻撃にひるみ、言葉が出ない。

K: Eeh-eh. Don't answer. It's rhetorical. (と云って立ち去る)

S: (立ち去るクリプキの背中に向かって) Well, why are you such a stupid head? That is also rhetorical. (レナードたちに) Sorry you had to hear that. (例文中、太字は強意のアクセント。以降同様。)(S3-9)

シェルドンは不快の感情を「逆転」させ、礼を言うという嫌味を發した。しかし、嫌味人間クリプキは上手で、My pleasure.と受け流す。皮肉が通じなかったかと不安になり、「礼は本心ではなかったんだぞ」と説明するシェルドン。クリプキは皮肉を追加。「樽の底をさらう」という慣用句を用いている。単に「ほかにゲストはいなかったの？」と言うよりも、嫌味な感じが増している。「不誠実性」の「修辭的技法」)

例3) レナードの母、精神科医で冷静に物事を分析する科学者ビバリーと、シェルドンの母、テキサスで教会に勤めている信心深いメアリーは犬猿の仲。ビバリーはメアリーの息子、天才物理学者シェルドンと気が合う。ビバリーとメアリーがやりあふ。

Beverly: It's fascinating. How can someone as enlightened as Sheldon come from someone like you? (間に座っているペニーは roll her eyes、驚き呆れている。)

Mary: I know the answer you're not gonna like it.

B: Try me.

M: When I was pregnant with Shelly, I was driving to church and I was praying to the Lord to give me a son smarter than his dumb ass daddy, and I looked over and I saw a Jesus bubble head in the Subaru next to me nodding "Yes." (bubble head: 車などに飾る、首が揺れるフィギュア)

B: (呆れて自分の額を叩く。)

M: (その動作を真似て) What is that supposed to mean?

B: It means (額を叩いて) I can't believe we're having this conversation.

M: Well, do it some more (何度も自分の額を叩きながら), maybe you can knock some sense into yourself. ペニーが仲裁に入り、話題を変えようとする。(S8-23)

最初のビバリーの強烈な皮肉に、シットコムの撮影現場の観客からも思わず "Oh~." (強烈だな) の声上がる。メアリーはひるまず対抗。ビバリーは額を叩くという動作「不誠実性」のうち「非言語的な不自然さ」で嫌味を伝えている。メアリーはその動作を受け継ぎ、「もう少し叩けば分別が身につくかもね」と、さらに強烈な皮肉で切り返して対抗している。これも前出例1)と同じく、相手の前提(「額を叩く」という動作の意味)に立ったうえで、それを利用して切り替えしている分、嫌み度が増している。

③受け入れる例

例4) ペニーのことで悩むレナードは、ハワードが持ち込んだ「宇宙ステーションにあるトイレの修理」という作業を抜けて、ペニーのところに行こうとする。「なぜレナードだけ抜けられるの?」と不満げなシェルドンに、ハワードが「もしレナードがここでグジグジと言いつけたら迷惑だ」と説明する。

H: I'm going to kick him in his ovaries.

L: Thanks for understanding.

H: I got your back, sister.

L: Thank you! (部屋を出て行く)。(S2-22)

悩みを言い続けるレナードのことを「女々しい」と言うため、通常の "kick someone in the ass" を "ovaries(卵巣)" と言い換えた、皮肉を込めたジョーク。さらに、sister と呼びかけている。レナードは男性であり、卵巣もないので、「不誠実性」のうち、「事実との齟齬」を「慣用句」を用いて表現している。レナードはジョークをそのまま受け入れて返事している。コメディドラマならでは、の作られた滑稽な会話ではあるが、興味深い例である。岡本(2013)はサッカーでオウンゴールした選手に「ナイスシュート!」と言う例を挙げ、直接的な「下手くそ!」と比べて「ユーモラスであることが皮肉の口汚さを和らげていると思われる」と述べている。(岡本 2013,206-207) ハワードのジョー

クも直接的に「いつまでもぐずぐず言って女々しいな」と言うよりも口汚さは和らぐ。ただし、女々しいと思っているということはレナードにしっかりと伝わる。

④戸惑う・気付かぬふりをするなど。

例5) 他人の自虐的アイロニーの例。ハワードたちがシェルドンの部屋にいる時、コオロギの鳴き声が聞こえる。鳴き声からコオロギの種類を当てるシェルドンとハワード。意見が食い違い、互いの宝物を景品に賭け、コオロギを捕まえ、大学の昆虫研究者に種類を聞きに行く。研究室が開いていたので勝手に入る。奥のドアから教授が出てくる。教授は研究費をカットされ、研究室を追い出されるので片づけをしていたのだ。

Prof. Crawley: (シェルドンたちに気付いて) Don't knock! Just walk in! Why be polite to the world leading expert on the dung-beetle? (S3-2)

教授は研究費カットや、妻に浮気されたこと、田舎に引っ越す羽目になったことなどを愚痴る。自虐的な皮肉(「不誠実性」の「感情・評価の逆転」かつ「音調の不自然さ」

(全体に叫ぶような口調))に、初対面のハワードたちはコメントしようもなく、戸惑いながら愚痴を聞いている。このように、話し手と聞き手の基盤が共通でない場合(「共通の基盤」(Common ground)(Clark1996, 岡本 2010))、話し手の自虐的皮肉という意図は聞き手に通じたとしても、なぜそのような皮肉を言うに至ったかの理由・背景情報を聞き手は持っていないため、その皮肉に対してコメントのしようがない。

4.3 話し手にアイロニー意図なし・聞き手が気付く場合

アイロニーは必ずしも話し手が意図しているとは限らない。秋元・邑本(2007)が実験から導いた「話し手に関係なく自己中心的な視点から語用論的不誠実を知覚した時点で発話のアイロニーらしさが知覚される」という点が表れているのがこのケースである。BBTでは天才シェルドンは頭脳明晰・博識で、幼少期から、周囲の人間が *stupid* だと思っていて、普段から他人を見下した発言が多い。レナードたち友人はシェルドンのことを *condescending, arrogant, selfish* だと思っている。したがって、シェルドンには悪意はなくても、友人たちはシェルドンの発言に嫌味を感じ取ることが多い。

①傷つく・怒るなど

例6) ペニーは友人バーナデットが自分のボーイフレンドのレナードと物理の話をすることに嫉妬。シェルドンに物理学を教えてもらうことに。シェルドンは実験として受け入れる。しかし、ペニーはノートすら持ってこず、シェルドンを呆れさせる。

S: (ペニーにノートを差し出し) It's college-ruled. I hope that's not too intimidating.

P: Thank you.

S: You're welcome.

物理学の講義をギリシア時代から始め、Newton に来たところで、ある公式が何を意味するか、ペニーに問うシェルドン。ペニーは答えられず“I don't know.”と、今にも泣きだしそうな様子で言う。

S: How can you not know? I just told you. Have you recently suffered from the blow to your

head?

P: You don't have to be so mean!

S: (作り笑顔で、顔も優しく語るように傾けながら) Have you recently suffered from the blow to your head?

P: No! You just suck at teaching! (S2-13)

学歴が高卒であるペニーのことをシェルドンは単に事実として受け入れている。「『大学』ノートだからといって委縮しないで」という発言に、シェルドンとしては嫌味な意図はない。しかし、ペニーにとっては高学歴のシェルドンにそう言われ、嫌みにしか聞こえない。“Thank you”と切り返しているが、シェルドンは元々自分の発言に皮肉はないのでそれを純粋にノートをあげたこと、気遣いに対する礼と受け取っている。また、後半は、丁寧に説明したのにペニーが理解できないことがシェルドンにとっては理解できないので、単に頭を打ったのか聞いている。シェルドンには皮肉の意図はない。しかし、ペニーはそこに嫌味を感じ取り、怒り出す。

②やり返す

例7) (=例13) シェルドンは同僚クリプキとうまく仲良くなれず、「なぜ今の友達が僕を好きなのか」というアンケートを作った。それをペニーに渡して協力を乞う。「3時間くらいしかかからないから」というシェルドンに驚くペニー。「一体質問はいくつあるの?」

S: Only 211. Don't worry. I've kept them all at a high-school graduate reading level.

P: Thanks, pal.

S: You got it, buddy. 気づいてない (S2-13)

シェルドンがアンケートについて「高卒レベルにしておいたよ」と言っているが、悪気は無く、皮肉を言っているわけではない。その証拠にペニーがわざとくだけた、教養のないようなお礼を言ったことに対し、同様な話し方で返事している。ペニーはシェルドンの発言に嫌味を感じ取るが、いつものシェルドンのしそうなことなので、半ば諦めているのか、シェルドンの前提に立った、シェルドンの思う「高卒者のくだけた話し方」でお礼を言うという皮肉で返している。

例8) 機械を借りる必要から、大学の同僚で嫌味な人間クリプキと友達になろうとするシェルドン。絵本で友達作りの方法を学び、アルゴリズムに基づきフローチャートを描き、クリプキを食事に誘おうとするが断られる。では共通のリクリエーションをしようと誘う。しかし、共通の趣味が見つからず、チャートのループに陥る。そこで、エンジニア・Howardがループを解決する方法をチャートに描き加える。

S: A loop counter and an escape to the least objectionable activity. Howard, that's brilliant.

I'm surprised you saw that.

H: (友人レナードとラージの方に向いて) Gee, why Sheldon can't make friends? (S2-13)

シェルドンの前提としては、Howardは工学系大学の修士課程卒、「知識が足りない」

人なので、本当に「君がよく思いついたね」と驚いている。皮肉の意図はなく、むしろ褒めている。ハワードはその褒め言葉ではなく、それを発したシェルドンの「前提」に注目し、皮肉と感じ取っている。このように、二人の間で「共通基盤」が成立していないために行き違いが起きている。それを受けたハワードの皮肉は次節 4.4 で扱う。

③受け入れる・流す・気付かぬふりをするなど

例 9) シェルドンたちは研究で北極に行くことになった。それを知ったペニーはレナードに毛布をプレゼントし、行ってほしくないような素振りを見せる。レナードは3か月も離れることが不安になり、「北極行きをやめようかな」とシェルドンに話す。

L: I don't think I can go to the North Pole.

S: Okay, Leonard, I know you're concerned about disappointing me, but I want you to take comfort from the knowledge that my expectations of you are very low.

L: Yeah, that's very comforting.

S: Comforting is a part of leadership. It's not a part I care for, but such is my burden.

L: Terrific. (S2-23)

事実については、通常「事実との齟齬」があること（例えば土砂降りの雨を見て「いい天気だこと」と言うなど）が「不誠実性」の例だが、ここでシェルドンは、普段からレナードの専門は理論を確かめる実験の設計などで、純粋な物理学ではなく、子供のするようなことと考えている（実際「小学生が夏休みに豆を育てるようなもの」と喩えたことがある）。そのレナードにもともと大した働きを期待していないのだから、そんなにがっかりはしない、と言っているのであり、シェルドンの前提中では事実と発言に齟齬はない。しかし前出例 8 と同様に、シェルドンのその「前提」に気が付くレナードにとっては、強烈な皮肉である。ただ、長年の付き合いでどうせ反論してもシェルドンの考えは変えることができないと知っているため、反論はせず、表面上はシェルドンの発言を受け入れたかのような返答をする。シェルドンは自分の発言が皮肉と受け取られるとは全く予期していない。そこで、レナードの「とても安心したよ」と切り返しの皮肉には気付かず、「安心させるのもリーダーの仕事の内なんだ」と答えている。

⑤その他 話し手にアイロニーの意図なかったが、その場にいる第三者（別の聞き手）に悪い感じに響くかも、と途中で気づく例。

例 10) ビバリー（レナードの母、精神科医・学者でやや冷たい感じがする）がレナードに夫との離婚を告げる。

B:(to Leonard) Speaking of fathers, Leonard, I'm divorcing yours.

L:What?

B: Yes. He's cheating on me.

L: No!

B:Yeah, some waitress in the university cafeteria. Can you believe it? A waitress（語気を強め、馬鹿にした感じのトーン。 (to Penny) Oh, no offence, dear.

L: No, it sounded like a compliment. (S3-11)

ビバリーは自分が話しかけたレナードに対しては皮肉の意味はなかった。ただ、夫の浮気を思い出して悔しかったのか、思わず語気を強めて「浮気相手はなんとウエイトレスだったのよ」と言ってしまう。その場の第三者、ウエイトレスであるペニーにとって、それが皮肉に響いたかもしれないと気付き、軽く詫びを入れた。浮気相手がウエイトレスであることは事実であり、「不誠実性」のうちの「事実との齟齬」や「感情・評価の逆転」はない。馬鹿にした感じの強調「音調の不自然さ」により皮肉の意図が伝達された。ペニーはレナードの母の言動の強烈さには慣れており、驚きつつもさりとジョークのような発言で受け流している。

4.4 話し手にアイロニー意図あり・聞き手が気付かない場合

アイロニーは必ずしも毎回ターゲットによってアイロニーと認識されるわけではない。この節ではターゲットがアイロニーに気づかない理由を観察する。

① 純粹・ナイーブ

バーナデットは、交際初期にはハワードの皮肉を込めたジョークに気が付かない。

例 1 1) 交際初期のハワードとバーナデットの会話。

H: Jewish comedian, that would be new.

B: Is it? I think most comedians **are** Jewish. (S3-10)

Groucho Marx や Jerry Seinfeld に代表されるように、Jewish comedian は現実には多い¹⁾ので、「不誠実性」のうち「事実との齟齬」を突いたハワードの自虐的ジョークだったが、文字通りに受け取ったバーナデットの反応が笑いを起こす。

このように、交際初期にはバーナデットはまだ純粹という設定で、ハワードのジョークに気が付かないことが多い。それを認めているシーンがある。ハワードが初めてバーナデットをシェルドン&レナード宅での夕食に招いたとき、ハワードの発言でペニーが不機嫌になる。バーナデットは“Don't take him too seriously. A lot of what he says is intended as humor.” ペニーが“Yeah, I don't think it's very funny.”と言ったのを受け、“Me neither. But he just lights up when I laugh.”と答えている。

例 1 2) 大学の食堂で話しているとき、レナードが自分の実験に興味を示していたバーナデットを実験見学に誘う。

B: Really? Well, that would be great. (ハワードに向かって) How exciting is that?

H: Like Hanukah in July.

B: Do they have that?

H: (苦笑いをしながら) No.

B: Oh, you got me again. (S3-10)

ハヌカはユダヤ教で「キスレブ月（グレゴリオ暦の11-12月の25日に始まる8日間の祭り（ジーニアス英和大辞典）」であり、7月ではないので、あえて「不誠実性」の内の「事実との齟齬」（または「あり得ない仮定」）を使ったハワード流 Jewish ジョー

クである。バーナデット（敬虔なクリスチヤンの家庭で育った）はすぐにはジョークに気が付かず真面目に聞き返してしまう。

ハワードは、自分の彼女を親友レナードが実験に誘ったことを不愉快に思っている。また、後にバーナデットに詫びるときに告げているように、実は大人の男性として安定しているわけではなく、他の男性に脅威を感じている。それを遊び人風のスタイルでカバーしている。そういう自分の弱さも含めた自虐的なジョーク。

このように、交際初期にはバーナデットの純粹さ・初々しさが面白みを生み出している。ドラマの中で、バーナデットの変化が興味深い。交際が深まると、行き違いや喧嘩を繰り返しては仲直りをし、絆を深め、互いによき理解者となっている。ハワードがしそうな言い訳に先回り気付くなど、かなり鋭いところを発揮する。皮肉も言う²⁾。

例13) (=例7) 大学レストランにて。大学の同僚で、嫌みな人間クリプキ。彼が使用权を持つ機械をシェルドンも使いたい。レナードの発言「彼は友達にしか機械を使わせない」を聞き、シェルドンは「じゃあ、解決は簡単だ。僕は彼と友達になる(I shall befriend him.)」と言う。そこにクリプキが通りかかり、話しかけるシェルドン。

S: What would you say to the idea of you and I becoming friends?

Kripke: I would say...I have no interest in becoming your friend.

S: Really? Oh, that seems rather shortsighted coming from someone who is considered altogether unlikable. Won't you take some time to reconsider?

K: Yeah, I'll do that. (冷笑して去る)

S: Well, I think we're off to a terrific start. (S2-13)

クリプキは普段からシェルドンと仲が悪く、さらに「好きになれないやつ」と言われて、友達になることを承諾するはずはないのだが、「考えておくよ」と返している。シェルドンはその皮肉が分からず、字義通りに受け取って満足している。他人の気持ちを読み取るのが苦手なシェルドンなので、理由④とも言えるし、友人は自分のために良いことをしてくれると思っているので、理由③の自己中心的でもあるだろう。ここでは、人を疑うことを知らない³⁾ 点に注目し、①純粹・ナイーブとした。

②知識の不足

例14) Friend より。戦争映画の撮影に出かけるところのジョーイ。芝居相手の大御所俳優がセリフを言うたびに唾を飛ばしてくるので、よけるために、サングラスをしている。それを見て、ロスがジョークを言う。

Ross: Nice shades.

Joey: Thanks. Yeah, I figured if I wear these in my scenes at least I won't get spit in my eyes, you know?

Ross: And if I remember correctly, Ray-Ban was the official sponsor of WWI.

Joey: Great! (S7-23)

ロスのジョークに、「おまぬけキャラ」ジョーイは気が付かず、「それならちょうどいい

じゃん！」と喜んでいる。ロスは「不誠実性」のうち「事実との齟齬」を「僕の記憶が正しければ」というやや「不適切な丁寧さ」を追加し、少し笑顔で（「非言語的な不自然さ」）宣伝文句のような独特の抑揚（「音調の不自然さ」）をつけてジョークを発したが、一般的知識という共通基盤を持たないジョーイはその信号にも気が付かなかった。

③自己中心的な考え・性格

例15) (=例7) シェルドンは「なぜ僕を好きか」アンケートをペニーに依頼する。

S: Only 211. Don't worry. I've kept them all at a high-school graduate reading level.

P: Thanks, pal.

S: You got it, buddy. (S2-13)

ペニーが、シェルドンの（本人は意図していない）皮肉に対し、わざと教養のない話し方で礼を言うという皮肉で切り返したが、シェルドンは気付かず、同様の言い方で返事している。シェルドンは高卒の人はこのようなストリート系若者言葉で話すと決めてかかっている。物事を自分の基準でのみ推し量り、柔軟性がなく、自己中心的である。このドラマではそれがいかにも子供のころからの天才らしく、笑いを作っている。

例16) (=例8) 友達作りアルゴリズムのループ回避を描いたハワードに、シェルドンが（本人は意図しない）嫌味を言った。それについて、ハワードはジョークを発した。シェルドンはそれには気が付かず、クリプキと電話での会話を続ける。

S: A loop counter and an escape to the least objectionable activity. Howard, that's brilliant. I'm surprised you saw that. 君がよく思いついたね。

H: (友人レナードとラージの方に向いて) Gee, why Sheldon can't make friends? (S2-13)

疑問文の形だが、「こんな風に嫌味ったらしいやつだから友達ができないんだ」という答えを持っている、「不誠実性」の「修辭的技法」、かつ Gee という「誇張」、「非言語的な不自然さ」（苦笑い・呆れた表情）も追加している。

例17) 学長から北極研究調査を提案されたシェルドン。夜中に学長の家に行き、それを聞き出し、レナードを起こして話す。トイレに行ったレナードに話すシェルドン。

S: Do you remember the grant proposal I submitted to the National Science Foundation to detect slow-moving monopoles at the magnetic north pole?

L: Hardly a day goes by when I don't think about it.

S: Oh, how nice. (2-23)

レナードは「不誠実性」のうち「評価の逆転」（「毎日君の研究提案のことを考えているよ」）、「音調の不自然さ」（低く、感情のこもっていないような、抑揚のない言い方）で皮肉を言ったが、シェルドンはそれには気が付かず、「それは親切だ」と喜んでいる。小さい頃から周囲の人は自分のために尽くしてくれると思いつんで育っているシェルドンの、自己中心的な考えが表れている。

④他人に共感する能力の不足 ③の自己中心的とつながるが、シェルドンは他人の気持ちを読み取ることが苦手。そもそも、他人の生活・人生にほとんど興味を示さない。

例18) 他人の自虐的アイロニーに気が付かないシェルドン：ペニーはオーディションがうまく行かず、帰ってきたらカギが壊れて開かない。買い物を床に放り出し、へたり込んで泣き始める。

S: There, there. Would you prefer to wait in **our** apartment?

P: No, Sheldon, I'd rather sit on this freezing cold floor, sobbing like a three-year-old.

S: All right then. (と、ペニーを置いて部屋に入ろうとする)

P: For God's sake! (と言いながらシェルドンの部屋に入る)

S: Just when I think I've gotten the hang of sarcasm. (S2-3)

シェルドンが最初に **There, there.** と、慰めの言葉をかけ、珍しく親切な申し出をしているが、これは心底共感してではなく、社会の約束としてこうすべき、と母から教えられたことを実行しているだけである。心底共感しているわけではないので、ペニーの自虐的発言の真意に気が付かない。

4.5 話し手にアイロニー意図なし・聞き手が気が付かない場合

この場合は通常、アイロニーや言外の意図が表面化しないので、何も起こらないが、その会話を聞いている第三者や、ドラマの鑑賞者はその言外の意図に気づき、コメディドラマではそこで笑いが起きる（笑いが仕込まれている）。BBT ではレナードの母、精神科医で頭脳明晰なビバリーと、レナードの友人シェルドンの会話によく登場する。2人とも頭脳明晰で物事の分析は得意だが、人の気持ちに配慮することが（シェルドンは読み取ることからして）苦手である。

例19) 空港から家へと向かう車で。運転はレナード。

Beverly: Oh, did I thank you for the flowers?

S: You did.

B: I did that? Well, I don't really like flowers.

S: Neither do I, but it's the social convention.

B: It is, isn't it? (chuckle) (S3-11)

話者ビバリーにアイロニー意図はない。聞き手シェルドンも嫌味は感じておらず、「慣習ですからね」と答えている。彼らにとっては「本当は花は好きではない」と事実を述べており、「不誠実性」の「評価の逆転」ではないため、アイロニーと呼べないかもしれない。しかし、第三者にとっては、通常は失礼にあたる発言であり、嫌味にしか聞こえない例である。このように、会話の関与者はアイロニーと認識していなくても、第三者にとってはアイロニーである場合もありうる。

4.6 4節のまとめ

以上、話し手にアイロニー意図が有るかどうか、と、聞き手がそれに気づくかどうか、によって実例を分類して観察した。アイロニーである場合、「不誠実性」のうちどのストラテジーを用いているかはさまざま、1つの場合もあれば、例16, 17のように、2つ・3つと複合的に用いている場合もある。内海(2003)が述べているように、

アイロニーはプロトタイプ的である。

また、聞き手がアイロニーに気づいた場合の反応は傷つく・起こる、やり返す、受け入れる・気づかぬふりをする、戸惑うなどさまざまであった。

話し手にアイロニー意図がなくても、普段の人間関係から、聞き手がアイロニーを感じる場合も多くあった。

聞き手がアイロニーに気づかない場合の理由としては、純粹・ナイーブ、知識の不足、自己中心的考え・性格、他人に共感する能力の不足、などがあると考えられた。

また、話し手も聞き手もアイロニーを認識していないが、第三者にはアイロニーが感じられる場合もあることを示した。

5. まとめ

本稿では、主に岡本(2004, 2014)の「コミュニケーションの不誠実性」に注目して、アメリカテレビドラマの実例について、聞き手の解釈・反応も含めて観察した。話し手の意図の有無、聞き手がそれをどう解釈するか、言外の意味に気づくかどうか、また、気付いた場合どのように反応するか、には、文脈だけでなく、それ以前の人間関係も関わっている。

また、山梨(2021)が「対話行動の本質は、単に情報のやりとりをするのではなく、対話者が相互に社会的、対人的な関係をつくりだしていく点にある。対話を通して相手を理解していく行為の中には、単に相手の字義通りの言葉の意味を理解していくプロセスだけでなく、メタメッセージを推論し、相互の発話意図をくみとりながら相手との対人関係をつくりあげていくプロセスもふくまれる」(山梨(2021,15-16))と指摘しているように、話し手の発話意図を推測するというコミュニケーションをしながら対人関係を作っているのである。

大変複雑な処理を人間は瞬時に行っている。脳科学の研究も進んでいるようで、人間のこの素晴らしい処理能力の解明が期待されている。

また、大学を含めた学校英語教育において、今日のグローバル社会にあって、英語で情報を収集したり、意見を発信したりできる人材を育てることは重要である。

実践的な英語を教える際には、以下の山梨(2021)の指摘のように、単に会話によく出るフレーズを暗記するのではなく、総合的なコミュニケーションの教育が必要だろう。

(12) これまでの外国語教育におけるコミュニケーション能力の育成においては、主に対話や会話を可能とする文法能力と具体的な発話の場面(ないしは状況)に関する言語外的な知識の考察に力点が置かれている。しかし、対話や会話の柔軟な理解を可能とする言語的文脈や推論や背景的な知識に基づいて起動される潜在的な文脈の問題は等閑視されている。外国語教育においてコミュニケーション能力の育成を図っていくためには、対話理解(ないしは会話理解)に密接に関わるこの種の文脈理解のメカニズムも明らかにしていく必要がある。(山梨(2021,16))

また、対人関係の機能に注目し、状況に応じた相互作用や対人関係の構築・維持の方法を教えることも重要である。村田・大谷(2006)はBrown and Levinson(1987)らによる「ポライトネス」理論の観点から日本の英語教科書を調べ、「すでに30年以上にわたり行われてきたこれらのポライトネスの研究結果が日本の英語教育にはほとんど取り入られていない」、「これまでに明らかになっている日本語と英語の間でのポライトネス・ストラテジーの差異を、学習者に明確に教えていない」「日本のテキストは聞き手に情報を伝達する機能は重視するものの、英語を用いていかに聞き手との友好的関係を築くかという対人関係の機能に対する配慮はほとんど示されていない」という問題があると指摘している(村田・大谷 2006:196)。

本稿で取り上げたアイロニーについては、教科書に出る会話サンプルには登場しにくい。外国語教育における情報伝達の優先順位として、まずは情報や意見を伝えることが先で、皮肉を言う・理解する、などはその後の作業だからだ。また、学習者が実際に母語話者を相手に会話練習または実戦で会話する際にも、学習者が入門・初級段階では、アイロニーはそう頻繁には登場しないと考えられる。アイロニーを用いながらも良好な対人関係を保つというのは、相当に互いに信頼関係・友好関係が築かれている場合だからだ。そこで、英語教育において、疑似的ではあるが、主にコメディドラマの会話シーンを用いて、コミュニケーションのストラテジーを観察・学習させることが有効であると考えられる。

また、そこから、実利にとらわれない、英語を通して英語・日本語をはじめ、言語の不思議さや魅力について学ばせる「教養」教育も重要であると考えられる。

注

1) Groucho Marx, Jerry Lewis, Jerry Seinfeld(シットコム「Seinfeld(となりのサインフェルド)」で人気を博したスタンダップコメディアン), Jason Alexander(「Seinfeld」のダメ男George役で人気), Larry David(「Seinfeld」製作), Howie Mandel(BBTにはHowardが宇宙ステーションから帰国した際に空港シーンに登場), Jack Black など。

2) バーナデットのアイロニージョークの例: Howardがエンジニアとして宇宙ステーションへ行き、帰ってきた後、つい宇宙に行った自慢をしてしまう。周囲の友達はその煙たがり、バーナデットはHowardに宇宙の話をもう少し控えるように注意する。

B: I'm always on your side. / H: Then why are you trying to take this away from me? Being an astronaut is the coolest thing I'm ever gonna do. If I stop talking about it, then, I'm just... / B: Just what? / H: ...just plain old Howard Wolowitz again. / B: The plain old Howard Wolowitz is the best guy I know. / H: You're just saying that. / B: No, I'm not. I married him. On purpose. (S6-5) 「普通のあなたが一番いい」と言うバーナデット。お愛想でそう言っているだけなのでは、といぶかるHowardに「そうじゃないわ。(だって私)彼と結婚したのよ。(しかも)わざとよ」と、皮肉の入ったジョークだが、愛が込めら

れている。二人は仲直りする。

3) 例えば、泥棒に入られてパサディーナが危険だと思い、別の州に移り住もうとするエピソードで、到着した駅で、「荷物を運ぶのを手伝おう」と申し出た人に対して、「さすがはいい街だ」と安心して荷物を任せ、盗まれてしまう。）

引用したドラマ

- 1) Big Bang Theory(2007-2019, produced by Chuck Lorre and Bill Prady for CBS.): Season2-episode3 The Barbarian Sublimation, S2-13 The Friendship Algorithm, S2-15 The Maternal Capacitance, S2-22 The Classified Materials Turbulence, S2-23 The Monopolar Expedition, S3-2 The Jiminy Conjecture, S3-3 The Gothowitz Deviation, S3-9 The Vengeance Formulation, S3-10 The Gorilla Experiment, S3-11 The Maternal Congruence, S3-12 The Psychic Vortex, S6-5 The Rhinitis Revelation, S8-23 The Maternal Combustion
- 2) Friends(1994-2004, Warner Brothers.) S7-23 Best “Friends” Wedding part1

参考文献

- 秋元 頼孝・邑本 俊亮(2007). 「認知的負荷がアイロニーの判断に及ぼす影響 -アイロニーらしさの知覚は自己中心的視点から生じるのか-」 *Cognitive Studies*, 14(3), 特集-修辞の認知科学. 292-302.
- 有菌智美(2021). 日本語母語話者による英語比喩表現の解釈 『JACET 中部支部紀要』 第 19 号. pp.21-35
- Attardo, S.(2000). Irony as relevant inappropriateness. *Journal of Pragmatics* 32, 793-826.
- Clark, H.H.(1996,2012online) Using Language. Cambridge University Press. DOI: <https://doi.org/10.1017/CBO9780511620539>
- Gilles Fauconnier Mark Turner(2008) Rethinking Metaphor. (Working Paper)For Ray Gibbs, ed. *Cambridge Handbook of Metaphor and Thought*. Cambridge University Press. DOI: 10.1017/CBO9780511816802.005
- 深谷昌弘・田中茂範(1996). 『コトバの〈意味づけ論〉』, 紀伊國屋書店
- Grice, H.P. (1975). Logic and Conversation. In P.Cole and J.Morgan eds. *Syntax and Semantics*, vol.3, pp. 41-58
- 東森勲・吉村あき子(2003) 『関連性理論の新展開—認知とコミュニケーション』 研究社.
- 橋元良明 (1989). 『背理のコミュニケーション』 勁草書房.
- 今井邦彦 (2001(2009)). 『語用論への招待』 大修館書店.
- Sarala Krishnamurthy (2009). “How ya doin'?” Meta-pragmatic awareness in TV-series: Friends (a case study)https://www.academia.edu/34744830/Yeah_like_that_will_ever_work_A_purely_pragmatic_theory_of_irony_Abstract Academia. 2022.3.11 visited
- Leech, Geoffrey N. (1983) . Principles of Pragmatics. London:Longuman Group Ltd. ジェフリー・N・リーチ 池上嘉彦・河上誓作訳 (1987) 『語用論』. 紀伊國屋書店.

- 松井智子(2001). 関連性理論の広がり と 認知語用論の新展開. 『言語』 30(2), 57-64,
2001-02 大修館書店
- 村田和代・大谷麻美(2006). ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの指導の試み. 堀素
子・津田早苗他『ポライトネスと英語教育一言語使用における対人関係の機能』第10
章 195-230. ひつじ書房
- 西谷健次(1996). アイロニーの理解における言及の影響—言及理論の妥当性の検討—.『心理学
研究』, Vol. 66. No. 6, 393-400
- 岡本雅史 (2000) アイロニー発話の解釈随意性が示唆する発話理解の認知的構造.『語用論
研究』第2号、108-123.
- 岡本真一郎(2004). アイロニーの実験的研究の展望—理論修正の試みを含めて—.『心理学
評論』47 巻 4 号 p. 395-420 DOI https://doi.org/10.24602/sjpr.47.4_395
- 岡本真一郎(2010(2000)). 『ことばの社会心理学』 第4版. 株式会社ナカニシヤ書店
- 岡本真一郎(2013). 『言語の社会心理学』 中央公論新社
- 岡本真一郎(2014). 皮肉らしさをもたらすもの:コミュニケーションの不誠実性を中心に. 2014
年度日本認知科学会第31回大会プロシーディングス.
- Sperber, D. and Wilson, D. 1986 *Relevance*. Harvard University Press.=1993 内田聖二・
中達俊明・宋南先・田中圭子訳『関連性理論』, 研究社出版
- 辻 大介(1997). アイロニーのコミュニケーション論.『東京大学社会情報研究所紀要』55 号,
91-127
- 内海彰(1996). アイロニーとは何か? —言語現象としてのアイロニーのモデル化の試み—.言語
処理学会第2回年次大会発表論文.289-292.
- 内海彰(1997a). アイロニー理解の計算モデル. 語処理学会第3回年次大会発表論文集.393-
396.
- 内海彰(1997b). アイロニーとは何か? —アイロニーの暗黙的提示理論. 『認知科学』, 4(4),99-
112.
- 内海彰(2002). アイロニーの暗黙的提示理論とその優位性について.日本語用論学会第5回大
会 Programs & Abstracts, 141-148.
- 内海彰(2003). 言外の意味のコミュニケーション:語用論概説.『人工知能学会論文誌』18 巻 3
号 a. 1-8.
- Wilson, D. & Sperber, D. (1992) On verbal irony. *Lingua*, 87, 53-76.
- 山梨正明(1988). 文脈理解への言語学的アプローチ. (A Linguistic Approach to Context
Understanding) 『人工知能学会誌』, Vol.3, No.3. , pp.55-85.
- 山梨正明(2021). 認知語用論からみたコミュニケーション能力—対話理解の分析を中心に—.
『JACET 中部支部紀要』第19号. pp.1-20.